

茨城大学学報

第280号

平成20年8月～平成20年9月



図書館前のサルスベリの木

INDEX

- ◆学長就任挨拶
- ◆学長退任挨拶
- ◆水戸黄門まつり（市民カーニバル in MITO）に参加
- ◆茨城大学と常陸大宮市で地域連携協定を締結
- ◆徳永高等教育局長就任後、初の視察
- ◆「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催
- ◆平成20年度技術部研修会を開催
- ◆台渡里遺跡現地発表会を開催
- ◆工学部で多賀工業会館竣工式を挙行
- ◆平成20年度茨城大学大学院学位授与式

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

平成20年9月1日

学 長 就 任 挨拶

学 長 池 田 幸 雄



来年は茨城大学の「創立 60 周年」に当たります。昭和 24 年（西暦 1949 年）に開学して以来、本学は中堅の国立大学として順調に発展して参りました。とくに、「創立 50 周年」を迎えた 10 年前は、本学が最も充実していた時期であったように思います。その後、「大学の大衆化の波」を蒙り、本学を含む国立大学は厳しい環境に直面する事になりました。4 年前の平成 16 年には、「国立大学の法人化」が実施され、全国立大学は全く新しい体制に組み変わりました。幸いにも茨城大学では、この「法人化」を真摯に受け止めて、全教職員が努力をした結果、この 4 年間で「法人化」がすっかり定着致しました。

しかしながら、現在の茨城大学は、決して平穩無事な状況にあるわけではなく、難問が山積しております。このまま、無為無策に過ごせば、10 年後の「創立 70 周年」では、茨城大学はどうなっている事でしょうか？ 恐らく、「入学定員確保」に難渋している事でしょう。更に、運営交付金の減少による財政難に直面している事でしょう。今、この「創立 60 周年」の時期にすべき事を着実に実行して、10 年後の「創立 70 周年」を無事に迎えるべく、努力する事が必要です。このため、私は「入学定員の確保」と「財政の安定化」を図るべく、全力を傾けて努力し、茨城大学の一層の発展を期したいと思いをします。

私は「創立 60 周年記念日」に当たる来年 5 月 31 日までに「茨城大学の大学憲章」を制定し、茨城大学の行く末を照らす指針にしたいと考えております。茨城大学の使命を明確に提示し、茨城大学が日本と世界の文化に貢献する事を高らかに宣言したいと思いをします。また、この「大学憲章」と同時に、茨城大学の基本方針を示す重点施策として、次のような「基幹 4 本柱」を設定したいと考えております。

第 1 の柱は、「教育システムの確立」です。「入学等の入口」と「教育課程に相当する中身」と「就職等の出口」を充実させ、その整合性を図りたいと思いをします。特に、学生の学習意欲を引き出す教育を目指したいと思いをします。

第 2 の柱は、「学術・研究の充実」です。国際的にも優れた「個人研究」と多種多様な「プロジェクト研究」と茨城大学の特徴を示す「重点課題研究」などを推進して行きたいと思いをします。その中で、世界に誇れる研究が多く産み出されるようにしたいと思いをします。

第 3 の柱は、「社会貢献と地域振興」です。従来の受身型の社会貢献から 1 歩進んで、積極的な社会貢献を行いたいと思いをします。茨城大学が地域住民に直接働きかけて「地域教育力」を醸成し、住民

自らが地域振興を積極的に演ずるよう、働きかけて行きたいと思います。

第4の柱は、「大学改革の推進」です。現在の日本社会は急速に変化しており、その急速変化に適格に対応するため、常に「大学改革」が必要です。現在は、茨城大学の「法人化」が実施されてから5年目になりますが、法人化当初の大学組織の不完全さがめだつようになりました。このため、改善を図る必要があります。さらに、教職員が気持ち良く働けるよう、職場環境を改善する事も重要だと思っています。

以上、私は「大学憲章」と「基幹4本柱」を掲げて、茨城大学の一層の発展を図りたいと思います。今、茨城大学の全教職員が鋭意努力すれば、茨城大学は、「創立70周年」は勿論のこと、「創立100周年」をも無事に迎える事が出来るであろうと確信致します。

最後に、茨城大学の全教職員は、互いに協調し合い、一層の努力を結集して茨城大学の更なる発展を実現すべく、ご理解とご協力を頂きたく、心からお願い申し上げます、私の就任の挨拶と致します。

以上



平成20年8月31日

退任に当たって

学 長 菊池 龍三郎

教職員の皆様には、日頃からそれぞれのお立場で、教育・研究・校務・社会貢献等をとおして大学の発展にご尽力下さっていることに心からの感謝を申し上げます。

平成16年4月に法人化した後の学長選考において、茨城大学学長に推薦され、同年9月1日から学長の任に当たって参りましたが、この度4年間の任期が終わり職を退くことになりました。退任に当たりひとことご挨拶を申し上げます。



法人化は、国立大学にとってすべてが新しい体験でありました。教職員の身分が公務員でなくなったことなどに伴い、それまでの国家公務員法、教育公務員特例法等の世界から、国立大学法人法、労働基準法、労働安全衛生法、そして学内的には就業規則等の規定を受ける世界に入りました。大学運営においても役員会、経営協議会、教育研究評議会等がそれぞれの役割を果たしながら、競争的環境のもとで中期目標・中期計画や年度計画を確実に遂行するとともに、教育・研究・社会貢献等の面ですぐれた特色を出すことが期待され、それを成し得たかどうか評価される厳しい時代になりました。

この4年間を振り返って、大学運営に関しては試行錯誤の連続でありました。私の不慣れや力不足もあり、教職員の皆様にはご心配・ご迷惑、またご苦勞をおかけしたこと、また歯がゆい思いをさせたことも少なくなかったと思っております。学長運用教員の確保を始めとして、全学に相当な負担をおかけしたことも確かです。しかし、皆様のご努力・ご協力のお陰で、法人化以前と比べ茨城大学が確実に変わってきていることは確かだと感じており、このことには心から感謝申し上げたいと思います。

教育に関しては、高等教育が抱える様々な問題や課題に対して本学が実験的先進的に取り組んだ試みが、例えば現代GP、特色GP、大学院GP等に採択されているほか、総合英語は確実に成果を積み上げてきており、さらに専門教育の面ではJABEEなど国際的な水準保証への取り組みも定着してきております。いずれも教職員の皆様のご努力とご協力によるものです。

余談ですが、8月8日には文部科学省の徳永高等教育局長が就任後最初の視察先として本学を挙げて下さいました。農学部におけるいくつかの教育・研究上の取り組みについて直接ご覧頂くことができましたが、大変により教育が行われているとの高い評価を頂きました。本学の様々な取り組みが次第に評価されてきていることと意を強くしたところです。

国立大学の将来は、学士課程教育ならびに大学院教育の質を確実に保証できるかどうかにかかっています。本学が様々な分野でしっかりと教育に取り組んでいる大学として評価されるよう、今後とも皆様のご尽力、ご努力をぜひお願いいたします。

研究に関して言えば、本学では「茨城大学の研究推進方針」を策定し、基盤研究、重点

研究等に力を入れてきております。個人研究の面では、この数年、文系でも理系でも、本学の名を大いに高めて下さった先生方が何人も出ました。さらに特色ある重点研究に関しては、まず東京大学を基幹校とする「サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）」の構成メンバーとして、既に本学は「茨城大学地球変動適応科学研究機関（IGAS）」を設置しましたが、今やその活動は国内外に広く知られ高く評価されてきております。

さらに、4月からは「茨城大学フロンティア応用原子科学研究センター」を設置しました。これは、ご承知のように、東海村に建設中の大強度陽子加速器施設の稼働に関連して、本学が茨城県から引き受けるビームラインの運転・維持・開発研究を今後の本学の発展の起爆剤にしたいとの意図によるものです。私たちは、本センターにおいて、理系だけでなく文系にまでまたがる広汎かつ特色ある研究プロジェクトがいくつも立ち上がり、動き出すことを目指しております。しかし、まだまだ課題が多いことも事実で、今後とも全学的なご支援をお願いいたします。

「地域に支えられ地域から頼りにされる大学」を目指す本学は、特に社会貢献の面で特筆すべき成果を挙げてきております。社会連携推進本部、各学部、各センター等による多くの地域連携・地域貢献活動は、本学が地域の各界各層の方々から幅広い理解と力強い支援を得る重要な機会や場になりつつあります。これもまた教職員の皆様のご努力の賜物です。

急速に進む高等教育の国際化への対応に関しては、多くはこれからの課題です。その意味でも、例えば大学院教育における英語による授業の増加等、国際化の推進に向けた条件づくりは今後ぜひ推進して頂きたいと願っております。

老朽化した施設を数多く抱える本学は、施設整備が大きな課題でありました。しかし、関係者のご努力下、この数年改修が急速に進みつつあり、あと1、2年で一区切りがつくと期待しております。大変なご不便をおかけしましたが、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

以上のように、教育・研究・地域貢献、さらに施設整備の面では一定の成果を挙げてきていると感じております。しかし、残念ながら私の代には達成できなかった課題、解決できなかった課題も多く残されていることは確かであり、これについては今後委ねることになります。

教職員の皆様には、池田次期学長のもとに力を合わせ、茨城大学の将来の可能性をぜひ大きくして頂きたいと心から願っております。

最後に、茨城大学の発展のために皆様から頂いた多くのご支援、ご協力に対し改めて心からの感謝を申し上げますとともに、皆様の今後のご健勝とご活躍を心から願って退任の挨拶といたします。4年間本当に有り難うございました。

◆ 水戸黄門まつり（市民カーニバル in MITO）に参加

茨城大学では、8月2日（土）に水戸市内で開催された「水戸黄門まつり（市民カーニバル in MITO）」に3年連続で茨城大学学生・教職員が参加しました。

今年は学生、留学生及び教職員約75名が午後4時30分から約4時間踊り続け、楽しい汗を流しました。

この企画は、本学のPR、学生の夏の思い出作りと学生教職員の熱気を市内に振りまこうとして参加を始めたもので、約3km（水戸中央郵便局から大工町交差点までの往復）の沿道を30度を超える暑さの中で熱中症にもならず、無事皆さん踊り終え茨城大学をPRしました。

残念ながら、黄門賞、助さん賞、格さん賞は受賞できませんでしたが、終了後の学生・教職員の懇親会で共に語らい、5日間の練習と当日の踊りは実のある踊りであったとの報告や来年の参加を誓う者など、成し遂げた充実感に浸ることができ、来年も引き続き参加することで学生・教職員一同で誓い合いました。



市民カーニバルに参加する茨城大学チーム

◆ 徳永高等教育局長就任後、初の視察

文部科学省の徳永高等教育局長が、就任後初めての大学視察として8月8日（金）茨城大学農学部阿見キャンパスを訪れました。（随行は国立大学法人支援課 田坂知久支援第二係長）。

当日は、菊池学長ら本学関係者と懇談後、中島農学部長から農学部の教育方針・課程等について概要説明を受けた後、早速大学院GPに採択された「地域サステナビリティの実践教育」セミナーを視察、インドネシア3大学との教育研究交流の現状について説明を受けました。

徳永局長は現地でのフィールドワークなどに関心を持ち、実際に参加した大学院生に熱心に質問し、「お互いの文化を知るよい機会になった」「いろいろな意味で多くの刺激を得られた」と研究交流だけでなく、学生が成長の手応えを得ている様子に頷いていました。

その後、高校生対象の公開講座「高校生のためのバイオテクノロジー実験講座」を視察し、TAとして指導に当たった学生と懇談しました。特に数年前は受講生として参加し、その後、茨城大学に入学し現在ではTAとして高校生の指導に当たっているという大学院生の話に「非常に理想的な形」と感想を述べました。

炎天下にも関わらず、フィールドサイエンス教育研究センターのアスパラガスやキュウリなどの栽培の様子を視察、暑い中作業中の学生らに声をかけていました。視察後、アスパラガスや果物など新鮮な収穫産物を試食されました。

今回、学生の実験・実習を見学する機会を楽しみにしていたという局長は、「非常によい教育をされていると感じた」と視察を振り返り、大学を後にしました。



◆ 茨城大学と常陸大宮市で地域連携協定を締結

茨城大学と常陸大宮市は平成20年8月19日、常陸大宮市役所において「連携協力に関する協定」を締結しました。

常陸大宮市との間では、平成17年4月に、人文学部との間で地域連携協定を締結し、その後3年にわたり積極的な地域連携活動を実施してきました。

まちづくりシンポジウムや市民大学講座、森を活かした町づくり協議会、茨苑祭（学園祭）への参加などが主な連携事業となっています。

これまで、常陸大宮市との間で、従来の人文学部との活動の域を超え、他の学部を含めた茨城大学としての包括協定を締結できないか検討を続けてきました。

本協定の締結により具体的に取り組む事業は「まちづくり」「産業の振興」「教育と文化」「環境」等となります。

常陸大宮市との間で地域連携協定が締結され新たな活動が展開されることは双方にとって意義があり、本学の持っている知的財産の提供や学生、教職員によるボランティア活動などが期待されています。



握手を交わす菊池学長と三次常陸大宮市長

◆ 「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催

8月19日（火）、「高等学校長協会等との連絡協議会」を開催しました。この連絡協議会は、茨城大学の教育についての情報交換を主たる目的とし、あわせて地元高等学校との相互の教育活動の改善、充実を図るため、毎年同時期に開催されており、今年度は昨年より多い26校の県立・私立高等学校長の出席がありました。

議事は白井副学長による「茨城大学の教育について」の概略説明に始まり、高等学校長協会からあらかじめ用意された「高校生向け公開講座」や「キャリア教育」などの質問事項に答える形で進められました。

また、出席した人文、教育、理、工、農の各学部長らもそれぞれの学部の特色ある教育や今後の取り組みについて、熱心にPRを行い、予定の時間をオーバーするほどの加熱ぶりでした。

質疑応答は、高大接続教育・リメディアル教育、地域密着型のAO入試など多岐に渡り、中でも、「地域に密着した入試」への可能性については関心が高く、積極的な意見交換が行われました。また、講師に関する情報提供システムなど、今後の連携を強化するための課題などについても話し合われました。

この協議会により、高大連携のあり方について共通理解がより深まったとともに、相互の教育活動の改善や充実が再認識されました。最後に、今月で任期満了により退任となる菊池学長より挨拶があり閉会となりました。



◆ 平成20年度技術部研修会を開催

第11回技術部研修会が平成20年9月5日（金）にE5棟8階イノベーションルームで開催され、特別講演2件、海外研修報告1件、技術発表7件がありました。

会に先立ち工学部米倉達広副学部長より開会の挨拶がありました。

特別講演として、第20回（平成20年度）科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けた同大小峯秀雄准教授からは「人類と原子力エネルギーを共生するために」と題した実験を交えた講演が行われました。

次いで、同大黒澤馨教授からは、身近で利用されている暗号の紹介と「認証コード及びハイブリッド暗号の最前線」と題した講演があり、共に活発な質疑があり好評を得ました。

また海外研修報告では、イギリスにおける安全管理に関する詳細な報告が成され、技術発表では、各学科で行われている学生実験について実験担当技術職員から苦労談を交えた報告がされました。

筑波大、埼玉大、群馬大から参加した技術職員からの質問もあり活発な技術発表会を開催することができました。

工学部技術部の谷川邦夫専門員は「参加人数は技術部職員を含め約40名ほどでしたが、年々進歩する技術革新に乗り遅れないよう日々研鑽に努めたいと考えています。また、懇親会では他大学の技術職員の状況等が話し合われ、お互いの立場の認識等技術部の方向性を一考する良い機会に恵まれました。」と研修会に手応えを感じていました。



講演をする黒澤馨教授

特別講演で実験をする小峯秀雄准教授

◆ 台渡里遺跡現地発表会を開催

茨城大学では、9月7日（日）に台渡里遺跡（水戸市渡里町）の発掘調査成果の公開と現地発表会を開催、300名という多数の参加がありました。（共催：水戸市教育委員会、後援：五浦美術文化研究所）

同大人文学部考古学研究室では、8月24日～9月13日まで水戸キャンパス構内の渡里運動場において、学術発掘調査を行っているが、このたび、5～7世紀ごろの「豪族居館」の一部とみられる堀跡が発掘されたことを受け、一般市民を対象にその成果を公表し、体感してもらおうと企画されたものです。

発掘調査担当の田中裕人文学部准教授は、「台渡里遺跡ではこれまで、7世紀後半に創建された台渡里廃寺と、奈良時代以降の那珂郡家を構成する正倉院跡（倉庫群）が隣接して所在していることが知られていた。古墳時代から奈良・平安時代には、古墳や寺院など数多く知られる一方、それらの担い手となった有力集団の居住地・根拠地は把握しにくいのが実状。このように寺院など公の施設の隣接地で豪族居館が発見されたことは、当時の政治の担い手を知る上で全国的に価値の高い資料」と説明しました。

今回の発表会は、歴史ファンにとどまらず、地域の方の参加が多いという点で、本来の目的を達しただけでなく、「説明を学生自身が行い、質問にも自分なりに答えていた点」について、複数の来場者からお褒めの言葉をいただいていた。



◆ 工学部で多賀工業会館竣工式を挙

多賀工業会（工学部同窓会）の活動拠点である「多賀工業会館」の増改築の竣工式が、去る九月十九日に工学部で挙行されました。

竣工式では、神永文人工学部長、寺門龍一多賀工業会会長による看板上掲式が行われた後、神永工学部長、池田幸雄学長による挨拶に続き、寺門多賀工業会会長から来賓祝辞が述べられ、多賀工業会、同窓生、大学内関係者の六十名余りがリニューアルを祝いました。

多賀工業会館は、築後 34 年を経ていたが、学生の勉学と厚生施設の充実、さらに学生と同窓生の交流の場を提供し同窓会活動を活性化にさせることを目的としてリニューアルされました。間仕切りのない広々としたオープン空間である交流・多目的ホールには、65 型プラズマテレビを利用した多機能プレゼンテーションシステムを備え、学生、同窓生、教職員の交流・勉学の場としての機能を持たせるため、移動式テーブルと椅子を設置し、ホール内には、多賀工業会の活動と工学部の歴史がパネル展示により紹介されている。今後は、博士の学位記授与式、卒業研究・修士論文発表会、修士論文発表会、同窓会、多賀工業会理事会などにも広く利用ができる施設となります。



◇ 平成20年度茨城大学大学院理工学研究科博士後期課程 学位記授与式を挙

平成20年9月30日(火)、本部事務局第2会議室において大学院理工学研究科博士後期課程の学位記授与式を挙し、課程博士5名、論文博士2名の計7名に学位記が授与されました。

列席者が見守る中、修了生らは池田学長から学位記を授与されました。池田学長は告辞にて、これまでの修了生たちの努力した結果を賞賛するとともに、ここまでの道のりが多くの人の支えによるものであること真摯に受けとめ、今後ますます社会において活躍されることを期待していると述べました。また、神永理工学研究科長からも祝辞がありました。

学位記授与式終了後開かれた修了生と指導教員を始めとした本学教職員との懇談会では、学長ら役員から各々激励の言葉が述べられ、門出を祝いました。



池田学長から学位記をうける修了生